



Voluntary Association



2011年3月26日
通巻第8号

・・・発行：いわき市生涯学習支援ボランティアの会・・・

生涯学習支援ボランティア はじめての研修旅行に旅立つ

平成二十二年は平城遷都千三百年の節目の年にあたり、古都奈良では多くのイベントが開催されました。これに合わせ、ボランティアの会では奈良研修旅行を企画し、会員相互の親睦を深めました。本号はその特集号です。

「写し」が映すもの

館長 上遠野 洋一

広々とした遷都千三百年祭平城宮跡会場の片隅で、どこか見覚えのある、懐かしい姿に出会った。全長三十M、マスト高十五Mの復元された遣唐使船である。この親近感は、見られなくなった木造船のせいかと思いついて定めていたが、全く違っていた。帰宅後にインターネットで、「吉備大臣入唐絵巻」(ポストン美術館蔵)の「写し」であることを知って、合点した。

住吉大神を船先に祀る優雅な船影が灘波の津に浮かんだとき、送り送られる人々は、信頼と希望の歓喜に満ちていたに相違ない。絵巻の大臣は、船の居館の上に鎮座して、意気揚々と

だが、どうしたのだ。甲板

に居室を二つも乗せて、重心は高く、平たい船底、順風しか受けとめない固定帆、水漏れ自在の甲板等、少々船を見慣れた素人眼にも「矢切りの渡し」船を三隻繋いだ程度にしか映らなかった。余談ながら、この船の基本型は北前船も同様で、黒船来航まで殆んど改良されなかつたという史実には驚いた。また、遣唐使船回は、四隻で構成されることが多く、一隻でも帰国できれば御の字と言つのがホンネだったという。「吉備大臣の神通力」もさりながら、草創期の国づくりの壮大なエネルギーには、慄然とさせられる。

エネルギーについては、昼夜を分かたぬ強行軍をモノともせず、記録的猛暑の中、約二万歩踏破した、ボランティアの会の

一年を振り返って

天島 敬之

皆さんの熱意に脱帽し、深く敬意を表します。それにしても、今日のイベントには、ボランティアがしっかりと根ざしていることを確認できる旅でありました。

ボランティアの皆さまには、たいへんお世話になっております。プラザ一年生の私にとっては不安の多い年でありましたが、無事市民大学とフェスティバルを終了出来ましたことは、ひとえに皆さまのお力添えの賜と深く感謝申し上げます。

と同時に、私にとっては、生涯学習支援ボランティアの底力を思い知らされた一年でもありました。

正直申しますと、市民大学には成人式にも引けをこらぬ入学式や修了式があることも、地元と連携して4学部が運営されていることも知りませんでした。そして、これらの運営はボランティアの皆さまが行っていることを知ったとき、言葉では言い表せない



春日大社全景

驚きを感じました。それも水が流れるごとくスムーズに運営を行っているではありませんか。何という結束力と底力でありましょう。

そして、現在このように思っております。「この一年間の足手まといは、私だったのね」と。今後も段取りの悪さから、いろいろとボランティアの皆さまには迷惑をお掛けするとは思いますが、どうかよろしくお願いたします。



奈良研修旅行に参加して

高橋 信喜

七月二十日午前零時十分、二十四名を乗せた観光バスが旧お魚センターから奈良に向けて出発しました。

八時四十五分頃奈良公園に着、一番のりらしい。まず、東大寺の大仏、春日大社と古代建造物に接する。昼食後は今回のメインイベントである平城宮跡へ向かう。



会場は

団体の観

光客が多

く、ボラ

ンティア

の方が案

内や説明

に活躍さ

れていま

した。約

一キロ四

方に点在

している朱雀門、資料館、大極殿

等を見て回る。大極殿には天皇の

玉座である「高御座」が置かれ、

即位の儀式や元旦の朝賀に使われ

たそうです。

約千三百年前にこの地に遷都した

聖武天皇、そしてこの地で暮らし

た役人や市民の生活振りはどうで

あったのか知る由もないが、タイ

ムスリップしてみた

い気持ちになりました。

振り返れば深夜バ

スに揺られ、三十五

度を越す猛暑の中、

神社、仏閣、仏像等

を見て随分歩きまし



た。先輩諸氏は元氣そのもの、負けてはならぬとひたすらついていくのみ。明日も無事故を願いながらお布団に入るやパターンキユーとなりました。

二十一日八時三十分、法隆寺へ出発。飛鳥時代に建立された世界最古の木造建築との説明を受け、奈良国立博物館で「仏像修理百年」の特別展を見学する。仏像修理に携わった人達の苦悩と技術の継承など百年の歴史を振り返るもので、人間の能力の奥深さに感動した。

昼食は三輪ソーメン山本へ。今まで食べたことのない素晴らしいソーメン。腹ごしらえと土産を買って歴史探索奈良を後にし

てバスはいわきへと帰路に着く。二十三時過ぎ出発地に無事到着。今回の旅で会員の皆様方、プラ



奈良の大仏さん



お昼は、ご存じ三輪そーめん

ザ職員の皆様方とのコミュニケーションを図られましたことはこの上なき喜びと感謝申し上げます。往復約千六百キロの旅は楽しかった。



平城宮朱雀門